

情報公開文書

棘上窩に基準軸を設定した、CTによる肩甲骨形態三次元計測の比較検討

●はじめに：

CTなどの医療用撮影技術の発展は整形外科領域における診断、術前計画、術後評価、さらには予後予測など様々な分野に貢献します。特に人工関節手術においては、術後に良好な成績を得るためには数度単位で正確に金属を設置する必要があるとされます。よって厳密な骨形態の評価が重要となりますが、従来の方法では同一人物においても撮影回ごとや施設ごとに若干の計測値にばらつきが生じる可能性があるほか、関節に変形が生じると計測の基準自体がずれてしまいます。そこで今回は既に撮影された画像を使用し、ばらつきやずれが生じにくいと考えられる基準軸を設定し、その有用性についての検討を行います。

●対象：

2015年4月1日から2018年3月31日までに、札幌医大附属病院および北海道立江差病院、函館五稜郭病院にて上半身CT撮影を受けられた患者さんが対象で、予定症例数は160症例です。

●方法：

・通常の診療に必要な検査結果および画像データなどを使用します。

・利用する情報

カルテ情報：診断名、年齢、性別、身長、体重、患者および医療者立脚型スコア

画像情報：X線画像，CT

・新たな追加検査をすることはなく、患者さんに余分な費用や危険は生じません。

●個人情報について：

・個人情報の漏洩を防ぐため個人を特定できる情報は削除しています。

・研究結果の公表の際には患者さんを特定できる情報は含まれません。

・研究の目的以外に患者さんのデータを用いません。

●参加しない場合や同意を取り消した場合でも、患者さんに適切な治療を行い、治療上不利な扱いを受けることや、不利益を被ることはありません。

●当院および上記関連施設にて2015年4月1日から2018年3月31日までにCT画像検査を行い、この研究に診療データを提供したくない方は次項、問い合わせ先までご連絡下さい。

●研究期間：病院長承認日から2022年3月31日まで

●医学上の貢献：

肩甲骨の形態をより正確に、誤差の少ない方法で評価できるようになることが期待できます。また年齢に伴いどのような形態の特徴が表れるか、肩関節に症状がある患者さんと無い方の間にどのような違いがあるのか新たな知識を得ることができます。これらの情報を活かすことにより、手術精度の向上や良好な臨床成績につながるものと考えられます。

●データの削除について：

データ解析後あるいは学会・論文発表後には、診療データの使用を拒否された場合においても公表された範囲のデータは削除できない場合があります。記録や文章などの書類は研究発表後、5年後に破棄される予定です。

●問い合わせ先

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学附属病院 整形外科

研究責任者 芝山 雄二

平日：tel) 011-611-2111 (内線33330)

夜間・休日：fax) 011-641-6026 (休日明けに連絡を差し上げますので連絡先が分かるように明記下さい)